



労働という企業の原点

令和7年4月9日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

労働という美德を失うことは、企業が自己の存続と確立を失うことである。これが正しい企業倫理性の構築である。労働が企業において唯一結果を与えるのである。

そして高い労働意欲は構成は資本の分配を求めるのである。これらは企業がその偽善性を排除し、現実において判断を行うとき正しいのである。

これらは労働という価値への正しい考察である。これら正しい勤労意識が今日生産性や効率性の拡大において莫大な富を創出するのである。これらは資本主義が所有と富における価値を有することにおいて否定できない。

これらは勤労という現実への判断はブルーカラーとホワイトカラーにおいてその意味と価値を相違させる。新しいエリートたちの先端性は今日現実の牽引する真実なのである。

これらは企業の健全性はの判断を再度要求するものである。その正しい意欲と勤労性という健全な企業風土は、労働への判断を共有し、その企業の健全性の構築を与えるものなのである。

これら絶対的な企業の健全性は、その未来における可能性を求めることができるのである。それらは新しい技術文明という自由経済が与える新しい未来なのである。

これらは企業経営における正しい判断であり、それら正しい判断が正しい現実を与えることができるのである。これらは他方においては企業の夢という現実がある。社員がこれを共有し、未来を模索することは偉大な企業の原動力なのである。

これらは創造性と可能性という現実が与える新しい未来が存在し、これらは異なる未来の創出を得るものなのである。

これらを基盤するのが経済であり、正しい倫理的判断における企業経営がそれを可能とするのである。